

宮城県稲作情報

宮城県米づくり推進本部
(事務局 宮城県農林水産部農産環境課)

平成30年7月17日発行

第2号

編集者

宮城県古川農業試験場

発行所

公益社団法人みやぎ農業振興公社

気象経過と生育の特徴

【気象】

- 6月中旬の気温は低く、日照時間少ない。
- 6月下旬の気温は高く、日照時間多い。

【生育の特徴】

- 7月2日現在の生育状況は、草丈、茎数、葉数とも平年並、葉色は濃い。
- 生育予測モデルによる県内の中生品種の出穂予測は8月6日頃で、県全体の出穂期平年値より2日遅い見込み。
- 稲体窒素吸収量は昨年および平年より多いが、葉色のピークは遅い。

これからの栽培管理の要点

- 7月中旬に葉色診断し、減数分裂期に追肥を行う。
- 低温時は深水管理で幼穂を保護。
- いもち病防除の徹底。
- 斑点米カメムシ類の密度を低くするため、水田畦畔の草刈りを水稻の出穂10日前までに実施。

【大豆】

- 中耕培土の実施。
- 雑草防除対策の実施。

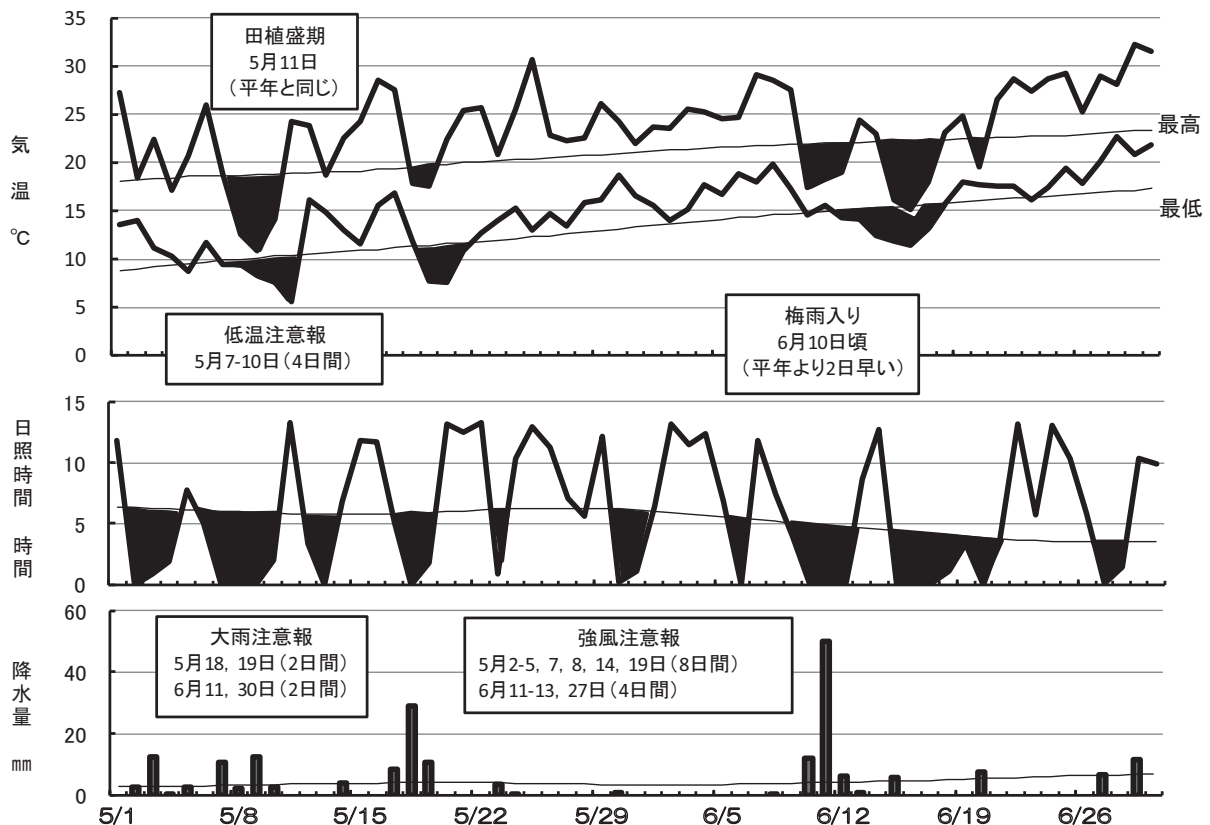


図1 田植期間からの気象経過(観測地点: 仙台アメダス5月1日~6月30日)

気象経過

6月中旬は気温低く、日照時間少ない
6月下旬は気温高く、日照時間多い

【6月中旬・下旬の気象経過】

- ・6月中旬は平均気温は概ね低い。降水量は概ね平年並。日照時間は少ない～かなり少ない。
- ・6月下旬は平均気温はかなり高い。降水量は少ない～かなり少ない。日照時間はかなり多い。
- ・仙台アメダスにおける6月中旬の平均気温は16.8℃(平年差-1.7℃)、降水量は70.0mm(平年比150%)、日照時間は26.0時間(平年比58%)。6月下旬の平均気温は23.6℃(平年差+4.3℃)、降水量は18.0mm(平年比27%)、日照時間は74時間(平年比220%)(表1)。
- ・東北南部は6月10日頃梅雨入りした。(平年より2日早い)。

表1 6月中旬・下旬の気象表(アメダス各地点)

地点	6月中旬(6/11~20)の気象						6月下旬(6/21~30)の気象					
	平均気温		積算降水量		積算日照時間		平均気温		積算降水量		積算日照時間	
	本年 (°C)	平年差 (°C)	本年 (mm)	平年比 (%)	本年 (hr)	平年比 (%)	本年 (°C)	平年差 (°C)	本年 (mm)	平年比 (%)	本年 (hr)	平年比 (%)
気仙沼	15.0	-2.1	28.5	54	21	39	21.7	+3.6	20.0	33	74	171
川渡	14.8	-2.8	44.5	81	12	24	21.5	+3.2	42.5	61	64	161
築館	16.1	-2.3	34.0	74	23	51	22.6	+3.4	30.0	52	70	190
米山	16.7	-1.7	16.0	43	24	46	22.7	+3.5	19.5	38	77	185
古川	16.2	-2.4	26.5	63	22	44	22.5	+3.1	37.5	65	71	179
石巻	16.4	-1.3	17.5	50	30	61	21.5	+2.8	9.5	18	75	195
仙台	16.8	-1.7	70.0	150	26	58	23.6	+4.3	18.0	27	74	220
白石	15.8	-2.8	50.5	103	24	50	23.0	+3.8	0.0	0	74	205
亘理	16.5	-1.7	84.5	177	28	59	22.9	+3.8	0.5	1	69	187
丸森	17.0	-1.6	70.5	161	32	75	23.8	+4.4	2.5	4	75	218

注) 平年値: 過去30か年(昭和56~平成22年)の平均値

本田の生育経過

生育は平年に比べ草丈、茎数、葉数は平年並。葉色は平年を1.0ポイント上回る。
「だて正夢」は、草丈が前年を上回り、茎数は前年並。

【県内生育調査ほ等の生育状況】

- ・主要品種別の生育状況は、「ひとめぼれ」が6月20日現在で、草丈34.7cm(平年比93%)、茎数380本/m²(平年比96%)、葉数8.3枚(平年差-0.2枚)および葉色(GM値)40.1ポイント(平年差-3.3)といずれも平年値を下回った。
- ・7月2日現在では、草丈50.6cm(平年比101%)、茎数554本/m²(平年比102%)、葉数10.1枚(平年差+0.2枚)で平年並となり、葉色(GM値)は平年を上回り42.7ポイント(平年差+1.0)となった(表2、図2)。
- ・「だて正夢」は、7月2日現在で、草丈53.9cm(前年比118%)と前年を上回り、茎数475本/m²(前年比99%)で前年並となった。葉数は9.9枚(前年差0.6枚)と前年を上回り、葉色(GM値)は42.9ポイント(前年差-2.4)と前年を下回った(表3)。

表2 主要品種別の生育状況(6月20日及び7月2日現在: 県内生育調査ほ)

品種	項目	草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉数(枚)		葉色(GM値)	
		6/20	7/2	6/20	7/2	6/20	7/2	6/20	7/2
ひとめぼれ	本年	34.7	50.6	380	554	8.3	10.1	40.1	42.7
	前年比・差	115	125	107	104	0.2	0.6	▲ 0.1	▲ 0.9
	平年比・差	93	101	96	102	▲ 0.2	0.2	▲ 3.3	1.0
ササニシキ	本年	32.9	48.2	391	592	8.2	10.0	38.9	40.9
	前年比・差	109	118	104	97	0.0	0.3	▲ 0.1	▲ 1.6
	平年比・差	92	100	97	99	▲ 0.1	0.2	▲ 3.3	0.4
まなむすめ	本年	36.7	52.3	395	587	7.5	9.3	41.1	42.8
	前年比・差	113	125	85	91	▲ 0.1	0.3	1.4	1.1
	平年比・差	98	106	96	106	▲ 0.3	0.2	▲ 2.8	1.8
県平均	本年	34.5	50.3	384	565	8.2	10.0	39.9	42.4
	前年比・差	113	123	104	101	0.1	0.5	0.0	▲ 0.9
	平年比・差	93	101	96	101	▲ 0.2	0.2	▲ 3.2	1.0

注1) 平年差比は過去5か年(平成25~29年)の平均値との差比、▲は平年差「-」

2) 葉色(GM値)は、SPAD502で測定した値

表3 「だて正夢」の生育状況（6月20日及び7月2日現在）

（県内「だて正夢」調査ほ）

品種	項目	草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉数(枚)		葉色(GM値)	
		6/20	7/2	6/20	7/2	6/20	7/2	6/20	7/2
だて正夢	本年	39.1	53.9	381	475	8.1	9.9	43.2	42.9
	前年比・差	110	118	118	99	0.3	0.6	1.5	-2.4

注) データは県内9か所の調査ほと作況試験ほの平均値

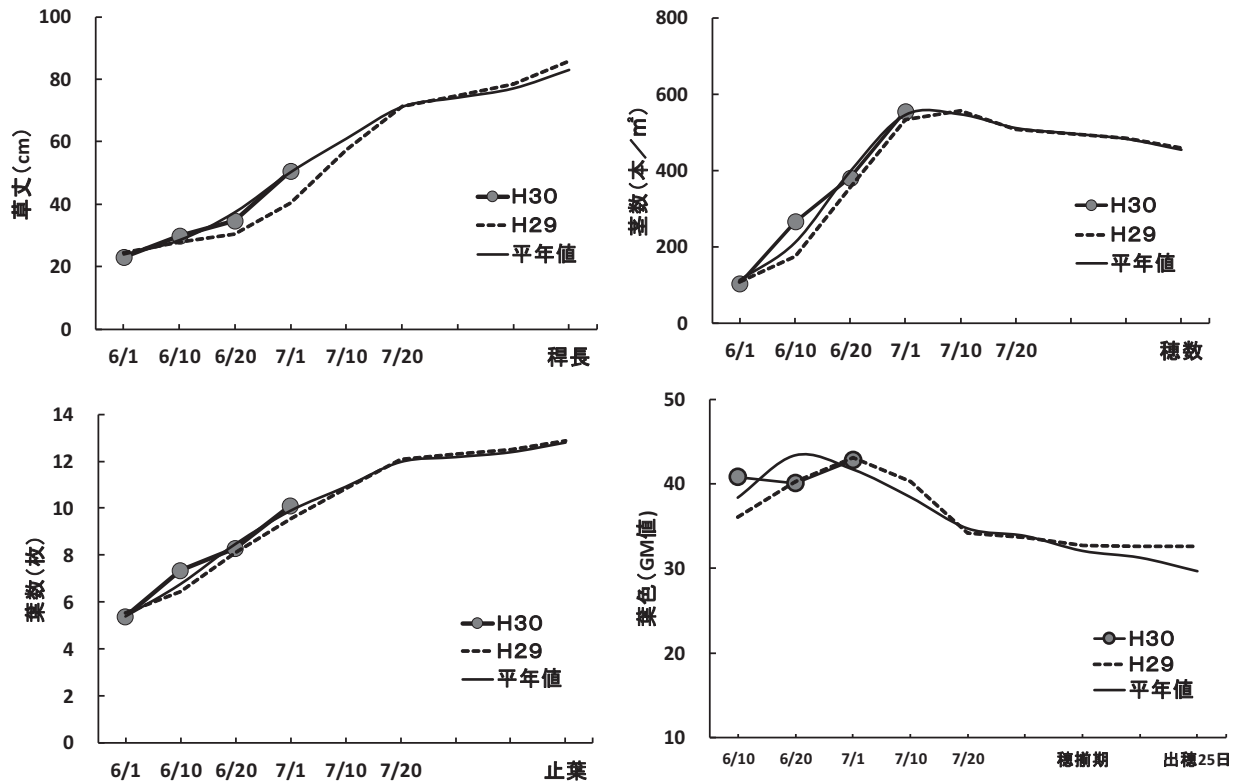


図2 生育調査ほ「ひとめぼれ」生育状況

（左上：草丈，右上：茎数，左下：葉数，右下：葉色）

注) 本年は6月10日調査を6月11日に，7月1日調査を7月2日に実施。

【作況試験ほの生育状況】

- ・ 5/10移植「ひとめぼれ」では，6月20日現在では草丈が平年比93%，葉数は平年差-0.3枚，葉色（GM値）は平年差-3.3ポイントと平年を下回り，茎数は平年比99%と平年並となった。
- ・ 7月2日現在では，草丈が平年比99%，葉数は平年差0.0枚，葉色（GM値）は平年差0.0ポイントと平年並となり，茎数は平年比111%と平年より多くなった（表4）。

表4 主要品種別の生育状況（6月20日及び7月2日現在：作況試験ほ）

移植月日	品種	項目	草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉数(枚)		葉色(GM値)	
			6/20	7/2	6/20	7/2	6/20	7/2	6/20	7/2
5月1日	ひとめぼれ	本年	36.5	52.4	628	786	8.2	10.0	44.8	43.4
		前年比・差	124	129	177	142	▲0.1	1.1	2.6	▲1.5
		平年比・差	98	106	129	129	▲0.4	0.6	▲1.4	1.1
5月10日	ひとめぼれ	本年	32.9	48.1	466	706	7.7	9.5	42.9	43.1
		前年比・差	112	123	99	107	0.1	0.6	0.7	0.1
		平年比・差	93	99	99	111	▲0.3	0.0	▲3.3	0.0
	ササニシキ	本年	31.8	47.1	524	775	7.6	9.4	41.2	42.5
		前年比・差	118	124	101	97	0.2	0.4	1.3	▲0.2
		平年比・差	93	101	100	105	▲0.3	0.1	▲3.9	0.6
まなむすめ	本年	35.2	48.5	451	637	7.6	9.4	40.0	41.3	
	前年比・差	115	118	106	100	0.5	0.9	0.9	▲1.2	
	平年比・差	95	98	109	115	▲0.2	0.3	▲3.9	0.3	
つや姫	本年	30.6	44.8	393	655	7.6	9.5	43.3	45.2	
	前年比・差	116	121	87	91	0.3	0.8	1.0	0.3	
	平年比・差	95	104	105	117	0.0	0.6	▲2.5	1.6	
だて正夢	本年	34.2	52.7	386	644	7.5	9.6	44.1	46.5	
	前年比・差	109	119	113	116	0.2	0.7	1.3	0.6	
	平年比・差	—	—	—	—	—	—	—	—	
5月21日	ひとめぼれ	本年	26.5	43.3	371	675	6.7	9.1	39.5	45
		前年比・差	108	113	93	99	0.2	1.0	▲2.8	▲0.1
		平年比・差	88	100	98	108	▲0.3	0.6	▲5.0	2.0
	ササニシキ	本年	27.6	41.6	349	742	6.6	8.9	37.7	45.3
前年比・差		113	112	92	106	0.0	0.6	▲2.3	1.3	
平年比・差		92	99	93	113	▲0.2	0.5	▲5.3	3.3	

注1) 平年差比は過去5か年(平成25～29年)の平均値との差比、▲は平年差「-」

2) 葉色(GM値)は、SPAD502plusで測定した値

窒素栄養

土壤窒素発現量は前年よりも少ない。稲体窒素吸収量は平年よりも多い。

【土壤窒素発現量】

- 古川農業試験場内の5月11日移植のほ場埋め込み培養試験における土壤窒素発現量は、7月2日現在では、化成肥料区が3.1mg/100g乾土であり前年よりも0.8mg/100g乾土少なく、牛ふん堆肥区は3.9mg/100g乾土であり前年よりも0.6mg/100g乾土少なかった(図3)。

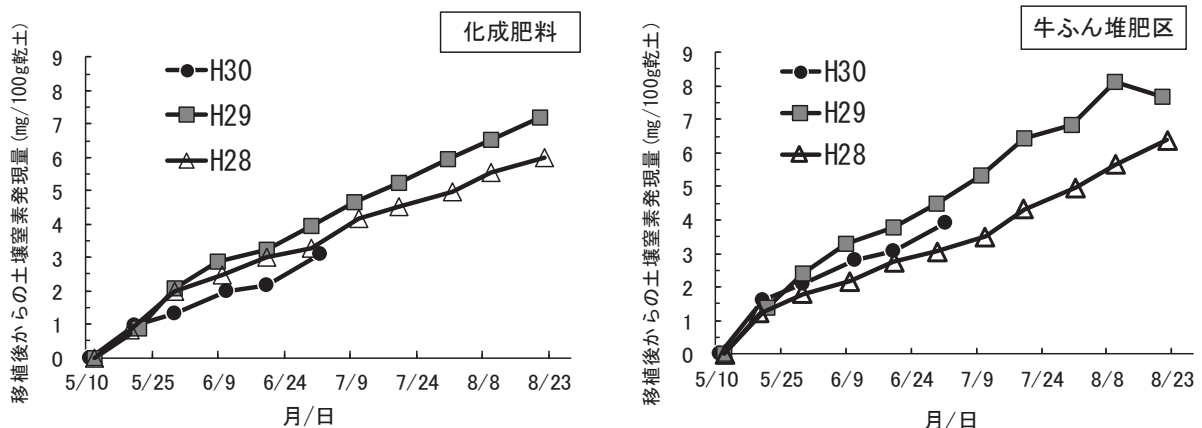


図3 ほ場埋め込みによる土壤窒素発現量(平成28年～平成30年)

注 1) 施肥前の作土を用いたほ場埋め込み培養試験により作成

2) 化成肥料区は平成15年からは基肥窒素量を5kg/10aとして連用、牛ふん堆肥区は化成肥料に加えて牛ふん堆肥を約1t/10a連用(農地土壤炭素貯留等基礎調査事業ほ場)

【稲体窒素吸収量】

- 7月2日現在の推定窒素吸収量の平均値(県内生育調査ほ「ひとめぼれ」)は、4.12g/m²と、昨年の2.93g/m²および平年値(過去5年間)の3.64g/m²よりも多い(図4)。また、本年度の移植期別の窒素吸収量(北部平坦)は、移植日が早いものほど多い傾向が見られた。

- ・ 7月2日現在の葉色値 (SPAD502) の平均値 (県内生育調査ほ「ひとめぼれ」) は42.7と昨年の43.7よりも低いが、平年値の41.7に比べ高い傾向にある (図5)。本年は6月10日調査時点で平年値よりも葉色値が高いが20日には低く、7月1日に平年のピーク並となった。このことから、葉色のピークは昨年と同時期で、平年より遅れていると考えられる。

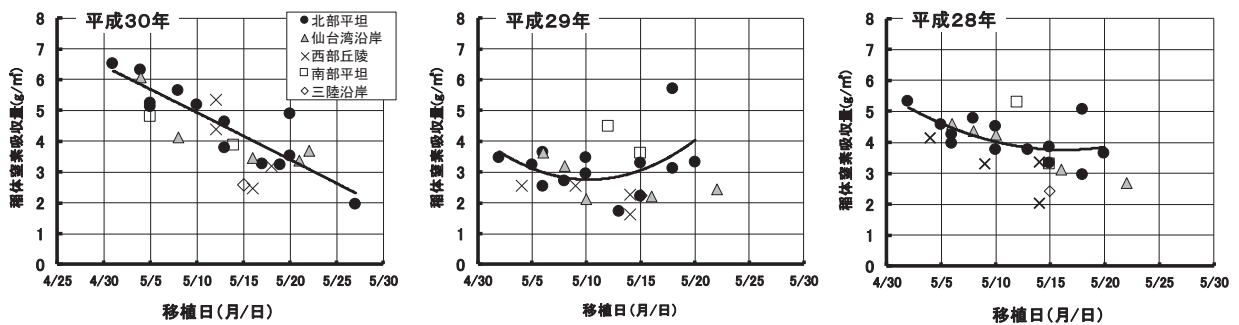


図4 移植時期別の稲体窒素吸収量の比較 (ひとめぼれ生育調査ほ)

注) 稲体窒素吸収量は、草丈、茎数、葉色及び移植後の有効積算気温から推定
 気温は農研機構のメッシュ農業気象データシステムから得た
 回帰曲線は北部平坦のデータから得た

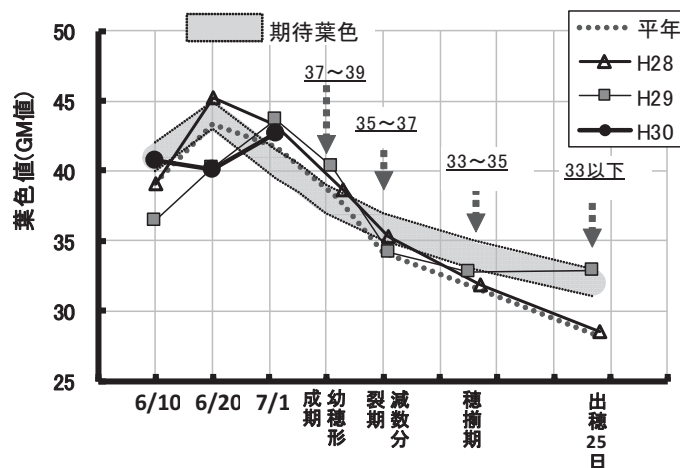


図5 水稻葉色の推移 (ひとめぼれ生育調査ほ)

病害虫の発生予察 (発生予察情報：7月5日発表)

【いもち病】

- ・ 葉いもちの全般発生期は平年よりやや早い7月第3半旬、発生量は平年並と予想される。

【紋枯病】

- ・ 発生量はやや多いと予想される。

【稲こうじ病】

- ・ 発生量は平年並と予想される。

【斑点米カメムシ類 (アカスジカスミカメ)】

- ・ 第1世代成虫発生盛期は平年よりやや早い7月第4半旬、発生量は平年並と予想される。

【イナゴ類 (コバネイナゴ)】

- ・ 発生量は多いと予想される。

※詳細は宮城県病害虫防除所のWebサイトを参照してください (最終ページにURL記載)。

これからの栽培管理の要点

【生育ステージの予測】

表5 地帯別生育ステージの予測（7月6日現在）

＜県全体＞出穂期予測：8/6（平年値：8/4）
7月に高温が続いた場合、出穂期が早まる可能性あり

地帯区分	田植時期			幼穂形成始期			減数分裂期			出穂期		
	始期	～	終期	始期	～	終期	始期	～	終期	始期	～	穂揃期
北部平坦	5/3	～	5/20	7/4	～	7/14	7/14	～	7/24	8/2	～	8/10
南部平坦	5/5	～	5/20	7/4	～	7/13	7/14	～	7/23	8/1	～	8/8
仙台湾岸	5/3	～	5/23	7/3	～	7/15	7/13	～	7/25	7/31	～	8/10
西部丘陵	5/5	～	5/23	7/7	～	7/17	7/17	～	7/27	8/4	～	8/12
山間高冷	5/11	～	5/26	7/11	～	7/20	7/21	～	7/30	8/12	～	8/18
三陸沿岸	5/7	～	5/23	7/12	～	7/20	7/22	～	7/30	8/10	～	8/17

※1) 7月5日までアメダスデータ実測値使用，7月6日以降はアメダス平年値を使用

2) 対象品種「ひとめぼれ」「ササニシキ」「やまのしずく（山間高冷）」

3) 各生育ステージの幅は、各地帯区分別の田植始期～田植終期で予測

参考値：各ステージの平年値と前年値

年次	田植時期			幼穂形成始期			減数分裂期			出穂期		
	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	穂揃期
本年	5/3	5/11	5/22									
平成28年	5/3	5/11	5/21	7/3	7/9	7/17	7/13	7/20	7/31	7/29	8/2	8/11
平成29年	5/4	5/11	5/21	7/5	7/9	7/15	7/14	7/20	7/27	7/29	8/1	8/11
平年値	5/3	5/11	5/21	7/4	7/8	7/12	7/13	7/20	7/25	8/1	8/4	8/11

※「幼穂形成始期」と「減数分裂期」は生育調査ほデータから

【今後の水管理】

- ・中干しは遅くとも幼穂形成始期に入る，7月8日頃までには終了する。
- ・中干し実施ほ場は，酸化状態にあるので，中干し後すぐに湛水状態にすると急激に還元が進み根を傷めるので，中干し後は1～3日程度走り水をしてから間断かんがいをする。
- ・根腐れが発生しやすく倒伏の危険のある水田は，有効茎を確保する頃から落水期まで，飽水管理することにより，根の健全化と茎の充実を図る。

【低温時の水管理】

- ・幼穂形成始期から減数分裂期にかけて日最低気温17℃以下が続く場合は，早急に深水管理を行う。
※幼穂形成始期（幼穂長1～2mm）：水深を5～10cm程度とする深水管理。
※減数分裂期（幼穂長3～12cm）：できる限りの深水管理（水深20cmが望ましい）
- ・深水が保てるよう畦畔等の補修を行い，地域として深水かんがいができる用水管理体制を整えておく。

【出穂後の水管理】

- ・出穂後20日間の最低気温が23℃以上が連続する高温の場合，白未熟粒が多発し，品質の著しい低下を招く危険性があるので，根の活力維持や同化物質の転流促進を図るため以下の対策を実施する。

※昼間深水・夜間落水管理：

晴天等の高温時において昼間はできるだけ深水管理とし，夜間は逆に落水管理とする水管理方法。一日の用水温の推移を見ると，気温よりも数時間遅れて水温の低下が見られるので午前9～10時頃にかんがいし，気温が用水温を下回り始める午後4時頃に落水するのが望ましい。

※走水等により土壌を常に湿潤状態に保つ保水管理：

出穂後の水管理を保水管理で維持することによって，昼間深水・夜間落水管理ほどの効果は得られないが，湛水管理に比べれば乳白粒や胴割粒の発生が軽減できる。

【追肥】

- ・生育ステージの予測を表5に示したが、幼穂長等で幼穂形成始期・減数分裂期等を確認し追肥時期を決め、穂肥要否の判定を行う（表6、表7、表8）。
- ・ただし、今年は葉色のピークが遅れているので例年よりも稲を注意深く観察し、適期に追肥を行うこと。
- ・基肥に緩効性肥料（長期溶出型の被覆尿素肥料等）を適正量施用した場合は、原則として穂肥は行わない。ただし、減数分裂期の葉色値が33以下の場合は追肥を検討する。
- ・復元田での追肥は原則として行わない。倒伏の恐れがある場合は、倒伏軽減剤の使用も検討する。

表6 幼穂形成始期及び減数分裂期の葉色の目安

品種名	幼穂形成始期(出穂25日前)		減数分裂期(出穂15日前)	
	カラースケール	葉緑素計値	カラースケール	葉緑素計値
ひとめぼれ	4.2 ~ 4.5	37 ~ 39	3.9 ~ 4.2	35 ~ 37
ササニシキ	-	-	3.4 ~ 3.7	32 ~ 34
まなむすめ	3.9 ~ 4.2	35 ~ 37	-	-

注1)この表の数値以下で追肥可能だが、倒伏診断指標を必ず併用して要否判断すること。

注2)葉緑素計値は「SPAD502」で測定した値。

表7 穂肥の標準的な窒素施用量の目安

品種	窒素施用量(kg/10a)	
	出穂25~20日前 (幼穂形成期)	出穂15~10日前 (減数分裂期)
ひとめぼれ	1.0	1.0
ササニシキ	-	1.0~1.5
コシヒカリ	-	-
まなむすめ つや姫	2.0	-
みやこがねもち	-	1.0

※「だて正夢」における追肥のポイント

- ・追肥は、減数分裂期に窒素成分で2kg/10aを施用する。
- ・有効茎数が目標穂数の400本/m²より不足することが予想される場合には、幼穂形成期と減数分裂期に窒素成分で1kg/10aずつ施用する。

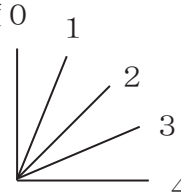
表8 幼穂形成期及び減数分裂期における倒伏指標値（ひとめぼれ）

幼穂形成期(草丈×m ² 茎数×葉色; 10 ⁵)								減数分裂期(草丈×m ² 茎数×葉色; 10 ⁵)									
茎数 (本/m ²)	草丈 (cm)	葉緑素計値(SPAD502型)						倒伏 危険域	茎数 (本/m ²)	草丈 (cm)	葉緑素計値(SPAD502型)						倒伏 危険域
		38	40	42	44	46	48				34	36	38	40	42	44	
600	50	11.4	12.0	12.6	13.2	13.8	14.4		550	60	11.2	11.9	12.5	13.2	13.9	14.5	
600	55	12.5	13.2	13.9	14.5	15.2	15.8		550	65	12.2	12.9	13.6	14.3	15.0	15.7	
600	60	13.7	14.4	15.1	15.8	16.6	17.3		550	70	13.1	13.9	14.6	15.4	16.2	16.9	
600	65	14.8	15.6	16.4	17.2	17.9	18.7		550	75	14.0	14.9	15.7	16.5	17.3	18.2	I
600	70	16.0	16.8	17.6	18.5	19.3	20.2	I	550	80	15.0	15.8	16.7	17.6	18.5	19.4	II
600	75	17.1	18.0	18.9	19.8	20.7	21.6	II	550	85	15.9	16.8	17.8	18.7	19.6	20.6	III
600	80	18.2	19.2	20.2	21.1	22.1	23.0	III	550	90	16.8	17.8	18.8	19.8	20.8	21.8	III
700	50	13.3	14.0	14.7	15.4	16.1	16.8		600	60	12.2	13.0	13.7	14.4	15.1	15.8	
700	55	14.6	15.4	16.2	16.9	17.7	18.5		600	65	13.3	14.0	14.8	15.6	16.4	17.2	I
700	60	16.0	16.8	17.6	18.5	19.3	20.2	I	600	70	14.3	15.1	16.0	16.8	17.6	18.5	I
700	65	17.3	18.2	19.1	20.0	20.9	21.8	II	600	75	15.3	16.2	17.1	18.0	18.9	19.8	II
700	70	18.6	19.6	20.6	21.6	22.5	23.5		600	80	16.3	17.3	18.2	19.2	20.2	21.1	
700	75	20.0	21.0	22.1	23.1	24.2	25.2	III	600	85	17.3	18.4	19.4	20.4	21.4	22.4	III
700	80	21.3	22.4	23.5	24.6	25.8	26.9		600	90	18.4	19.4	20.5	21.6	22.7	23.8	
800	50	15.2	16.0	16.8	17.6	18.4	19.2	I	650	60	13.3	14.0	14.8	15.6	16.4	17.2	I
800	55	16.7	17.6	18.5	19.4	20.2	21.1	II	650	65	14.4	15.2	16.1	16.9	17.7	18.6	
800	60	18.2	19.2	20.2	21.1	22.1	23.0		650	70	15.5	16.4	17.3	18.2	19.1	20.0	II
800	65	19.8	20.8	21.8	22.9	23.9	25.0		650	75	16.6	17.6	18.5	19.5	20.5	21.5	
800	70	21.3	22.4	23.5	24.6	25.8	26.9	III	650	80	17.7	18.7	19.8	20.8	21.8	22.9	
800	75	22.8	24.0	25.2	26.4	27.6	28.8		650	85	18.8	19.9	21.0	22.1	23.2	24.3	III
800	80	24.3	25.6	26.9	28.2	29.4	30.7		650	90	19.9	21.1	22.2	23.4	24.6	25.7	

倒伏危険域

- I 倒伏度2を超える確率5~20%
- II 倒伏度2を超える確率20~50%
- III 倒伏度2を超える確率50%以上

倒伏度0



【いもち病】

- ・箱施用剤による予防防除を行っていない場合は、ただちに水面施用剤による防除を行う。
- ・追肥後は、一時的にいもち病に対する抵抗力が弱まるので、葉いもち予防に箱施用剤や水面施用剤を処理したほ場でも、薬剤の効果が低下する7月中旬以降の葉いもちの発生に注意する。上位葉での葉いもちも穂いもちの直接的な伝染源となるので、発生が確認された場合はただちに茎葉散布剤による防除を行う。
- ・穂いもち予防のために、出穂期予測に応じて適期に水面施用剤による防除を行う。

【紋枯病】

- ・高温・多雨の場合は多発が懸念されるため、前年多発したほ場では発生状況に注意し、要防除水準を参考に防除を実施する。要防除水準は、減収率5%（被害発生確率50%）の場合、穂ばらみ期（出穂直前）の発病株率がひとめぼれ18%、ササニシキ10%、コシヒカリ29%以上となっているので、この水準を参考に茎葉散布剤により防除を行う（宮城県、普及に移す技術第90号、参考資料）。

【稲こうじ病】

- ・高冷地や中山間地、晩生品種、窒素を多用した水田等で発生しやすい。本病は穂のみに発生し、出穂前の予防防除が必要であるため、銅粉剤で出穂前20～10日頃、水面施用剤で出穂前までに防除を行う。

【斑点米カメムシ類】

- ・アカスジカスミカメの繁殖地となる牧草地では、7月中旬までに刈り取りを行う（宮城県、普及に移す技術第81、82号、参考資料）。
- ・畦畔や農道の草刈りは、遅くとも出穂の10日前までに行う。
- ・草刈りは広域的に実施することでより高い効果が期待できるので、地域内で協力して一斉に行うよう努める。

大豆情報

【生育概況】（古川農試作況は、7月4日現在）

- ・播種後は気温が高く乾燥し、その後は6月中旬を除いて高温傾向であった（表9）。出芽日数は平年より1～2日早かったが（表10）、乾燥により出芽揃いは平年より悪かった。主茎節数、分枝数及び総節数は平年並～やや多かった（表11）。

表9 半月別の気象経過（アメダス古川）

項目	月・半月	5月		6月					
		6	1	2	3	4	5	6	
平均気温	本年値(°C)	18.4	19.2	20.3	12.1	17.0	21.5	23.5	
	平年差(°C)	+2.0	+1.9	+2.5	-6.2	-1.8	+2.3	+3.8	
日照時間	本年値(h/日)	7.2	9.7	5.7	3.3	1.0	9.9	4.3	
	平年比(%)	112	160	106	68	23	244	109	
積算降水量	本年値(mm)	54.6	10.4	51.5	118.4	18.0	1.9	121.7	
	平年比(%)	55	10	52	118	18	2	122	

表10 出芽状況

品種名	播種期 (月/日)	出芽期 (月/日)	出芽日数		
			本年	前年差	平年差
タンレイ	5/25	5/31	6日	1日早い	1日早い
タチナガハ	5/25	6/1	7日	同日	1日早い
ミヤギシロメ	5/25	5/31	6日	1日早い	2日早い

- 注1) 出芽日数は播種翌日から出芽期までの期間
2) 平年差は過去5か年の平均値との差

表11 7月5日付け調査結果（7月4日調査）

播種期	品種名	主茎長(cm)			主茎節数(節/本)			分枝数(本/本)			総節数(節/本)		
		本年値	前年差	平年差	本年値	前年差	平年差	本年値	前年差	平年差	本年値	前年差	平年差
標播 (5/24)	タンレイ	29	+4	+2	8.5	+0.5	+0.7	1.6	+1.2	+0.6	12.8	+2.4	+1.8
	タチナガハ	26	+4	+3	8.4	+0.7	+0.8	1.5	+0.8	+1.0	13.6	+3.4	+4.0
	ミヤギシロメ	28	+3	+2	8.0	+0.2	-0.1	1.3	-0.4	+0.5	11.8	-0.3	+1.2

- 注1) 「タチナガハ」は出芽不良のため参考値とする
 2) 平年差はH29を除く過去5か年の平均値との差
 3) 栽植密度の設定は、条間75cm・株間20cmとした（1株2粒播種）

これからの栽培管理の要点

【雑草防除対策】

- ・後発生する雑草の草種及び葉齢を確認し、必要に応じて適切な剤を適期に散布する。
- ・ベンタゾン液剤（大豆バサグラン（ナトリウム塩）液剤）を使用する場合は、大豆開花期前に早めに散布する。なお、散布後に曇天や降雨日が長く続くと効果が劣ることがあるので留意する。
 ※除草剤使用の際は最新の情報（<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>）を確認し、農薬容器のラベルにある使用方法を遵守する。

【中耕培土】

- ・中耕培土が遅れると機械との接触により茎葉の損傷や断根が生じるので、開花期の10日前までに終える（図6）。標播（～6月上旬播種）では、1回目を本葉2～3葉期に子葉節の高さまで、2回目を本葉6～7葉期に初生葉が隠れる高さまで、晩播（6月中旬～播種）では、本葉5～6葉期に子葉節が隠れる高さまでを目安として行う。
- ・株元に土がよらないM字型培土は逆に悪影響となる場合があるので、培土の形状や収穫作業への影響を考慮して作業機の調整・速度に注意する。

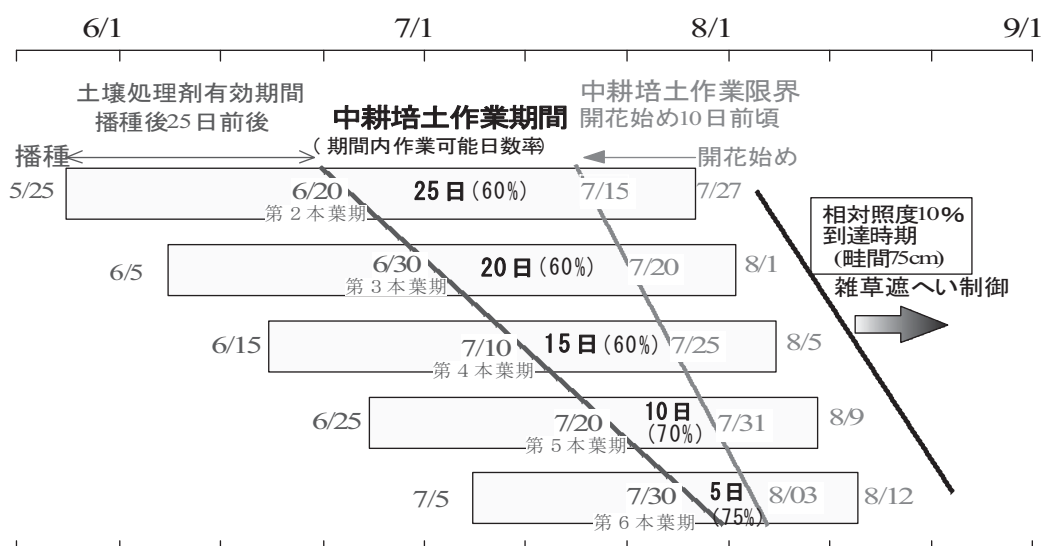


図6 中耕培土時期の目安

【追肥】

- ・ほ場の地力が低い場合や湿害などで根が浅い場合は、培土と同時に緩効性肥料（LP40）を窒素成分量で5kg/10a程度施用する。

農業経営収入保険制度が始まります

農業経営収入保険制度は、農産物の品目の枠にとらわれず、自然災害による収量減少だけでなく、価格低下など農業者の経営努力では避けられない収入減少を補てんする保険です。これにより、収益性の高い新規作物の生産や新たな販路の開拓等にチャレンジするなど、意欲ある農業経営者の取組の促進が期待されます。

この制度は、**平成31年1月**から開始されますが、加入申請の受付は、**平成30年7月**から宮城県農業共済組合の各支所で開始しています。

○加入対象者

青色申告を行っている農業者（個人・法人）が対象です。青色申告（簡易な方式を含む）の実績が1年分あれば加入できます。

○補償対象

農業者が自ら生産した農産物の販売収入全体が対象です。（所得ではありません）

○補償内容

保険期間の収入が基準収入の9割（5年以上の青色申告実績がある場合の補償限度額の上限）を下回った場合に、下回った額の9割（支払率）を上限として補てんされます。

○保険料・積立金

農業者は、保険料・積立金を支払って加入します。（任意加入）

保険料は掛捨てになります。

※保険料率は、補償限度80%の場合、保険金額の概ね1.08%（50%の国庫補助後）です。

積立金は自分のお金であり、補てんに使われない限り、翌年に持ち越されます。

○その他

収入保険制度と、**既存の農業共済、ナラシ対策、野菜価格安定制度**などの類似制度は、重複加入することができませんので、どちらかを選択して加入することになります。

詳しくは、宮城県農業共済組合の本所または最寄りの支所にお問い合わせ願います。

NOSA I 宮城	収入保険部	0 2 2 - 2 2 5 - 6 7 0 3
NOSA I 宮城	県南支所	0 2 2 4 - 6 3 - 2 0 1 2
NOSA I 宮城	宮城中央支所	0 2 2 - 3 9 6 - 3 0 7 0
NOSA I 宮城	亘理名取支所	0 2 2 3 - 3 4 - 5 0 3 1
NOSA I 宮城	六の国支所	0 2 2 9 - 6 4 - 1 3 8 0
NOSA I 宮城	大崎支所	0 2 2 9 - 2 2 - 2 1 4 1
NOSA I 宮城	栗原支所	0 2 2 8 - 2 3 - 7 1 1 1
NOSA I 宮城	迫支所	0 2 2 0 - 2 2 - 8 4 1 1
NOSA I 宮城	石巻支所	0 2 2 5 - 7 5 - 2 3 3 1

農薬危害防止運動実施中（6月1日～8月31日）

農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

稲作情報や発生予察情報をより早くご利用いただけるよう、下記の方法による提供を行っております。また、内容に関するお問い合わせは古川農業試験場（0229-26-5100）までご連絡ください。

【稲作情報：古川農業試験場】 <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/hk-nousi/>

【発生予察情報：病害虫防除所】 <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

【気象予報：仙台管区气象台】 <http://www.jma-net.go.jp/sendai/>

（次回発行 7月31日予定）